



## 2021年4月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年12月8日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東  
 コード番号 2438 URL <https://www.asukanet.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松尾 雄司  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200  
 四半期報告書提出予定日 2020年12月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年4月期第2四半期の業績(2020年5月1日~2020年10月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年4月期第2四半期	2,584	△17.8	△56	—	△7	—	△10	—
2020年4月期第2四半期	3,142	7.9	323	5.6	324	4.6	228	8.3
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2021年4月期第2四半期	△0.62		—					
2020年4月期第2四半期	13.57		—					

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年4月期第2四半期	6,302	5,588	88.7
2020年4月期	6,607	5,750	87.0

(参考) 自己資本 2021年4月期第2四半期 5,588百万円 2020年4月期 5,750百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年4月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2021年4月期	—	0.00	—	—	—
2021年4月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2021年4月期の業績予想(2020年5月1日~2021年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,775	△12.2	200	△71.8	250	△64.8	164	△67.2	9.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2021年4月期2Q	17,464,000株	2020年4月期	17,464,000株
2021年4月期2Q	615,057株	2020年4月期	623,057株
2021年4月期2Q	16,842,856株	2020年4月期2Q	16,841,001株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料 4 ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、企業活動や個人消費が停滞するなど、極めて厳しい状況で推移しており、感染収束時期が見通せない中、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社は、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し、遺影写真等画像映像のデジタル加工や通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部売上を含んでおります。

#### (メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大により葬儀の小型化が継続しており、遺影写真加工収入は回復傾向が見られるものの、動画等葬儀演出サービスは厳しい状況で推移しました。また、ハード売上や、額・サプライ品の売上も苦戦し、売上は前年同四半期実績を下回る結果となりました。一方、営業面は、プリント修復ツールを前面に出したことにより、新規契約件数は順調に推移しました。また、葬儀市場にITテクノロジーを活用した「葬テック」の一つとしてリリースしております「tsunago」は、香典受付機能の追加や、WEB上で時間と場所を選ばず偲ぶサービスの開発を進め、徐々に浸透しております。

利益面につきましては、広告宣伝費や旅費交通費などを抑制したものの、売上が減少したことに加え、画像処理オペレーターの人件費増加や、固定費削減を目的とした関東地区のオペレーションセンターの移転に伴い一時的な費用が発生したことなどにより、セグメント利益は減少いたしました。

その結果、売上高は1,151,737千円（前年同四半期比94.6%）、セグメント利益は250,342千円（前年同四半期比84.2%）となりました。

#### (パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業では、プロフェッショナル写真家向け市場は「アスカブック」、一般消費者向け市場は「マイブック」ブランドで展開しております。また、スマートフォンで撮影された写真からフォトブックや写真プリントをOEM供給しております。

プロフェッショナル写真家向け市場では、フォトスタジオ向け製品の拡販は進んだものの、主力であるウェディング向け写真集は、新型コロナウイルス感染症拡大による結婚式の延期などの影響を強く受け、大きく売上が落ち込みました。このような厳しい状況ではありますが、新型コロナウイルス感染症の収束によって需要は回復するという想定のもと、等身大フォトコンテストやWEBによるASUKABOOKセミナーなどの営業施策を実施してまいりました。また、新製品のリリースや、データ納品サービス「グランピック」の機能追加も行ってまいりました。

一般消費者向け市場も、旅行やイベントなどの自粛による撮影機会の減少により写真集ニーズが一時的に低下した結果、OEM部門も含め、売上は前年同四半期実績を下回りました。このような中、マイブック20周年キャンペーンの実施や、MyBookLifeやAutoalbumとのサービス統合などの施策を実施してまいりました。

利益面につきましては、広告宣伝費や旅費交通費、発送配達費などが減少したものの、生産稼働率の低下による粗利益率低下の影響が大きく、セグメント利益は大幅に減少しました。

その結果、売上高は1,378,878千円（前年同四半期比73.5%）、セグメント利益は80,272千円（前年同四半期比20.2%）となりました。

(エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、2011年3月に開始した事業であり、独自技術により空中結像を可能にする「ASKA3Dプレート」について、ガラス製、樹脂製それぞれ開発、製造、販売しております。

ガラス製ASKA3Dプレートにつきましては、まだ供給量が十分ではありませんが、サイネージ目的や開発目的での販売を進めてまいりました。徐々に生産体制が整いつつあり、下半期は販売を強化する方針であります。一方、ガラス製ASKA3Dプレートの量産技術の内製化を目的として設立した技術開発センターでは、試作品の生産体制が整い、量産技術の確立に向けたトライを繰り返しております。

樹脂製ASKA3Dプレートにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の環境のもと、空中結像による非接触操作が注目されており、多くのメディアで取り上げていただいた効果もあり、多くの問い合わせを受け、製品への組込用途を目的としたサンプル販売を進めてまいりました。

営業面では、展示会による販促が行えなかったものの、国内市場では自社営業による販売を進めるほか、海外市場では3カ所の代理店を設置し、販売体制を強化いたしました。設置案件や実証実験の案件、また事業パートナーによる製品化案件が増えてきており、引き続き中ロット規模の量産案件の受注に努めてまいります。

売上につきましては、樹脂製ASKA3Dプレートの販売が増加したため、売上高は前年同四半期実績を上回りました。

費用面につきましては、広告宣伝費や旅費交通費は抑制したものの、先行費用として、技術開発センター設立に伴う研究開発費が増加したため、セグメント損失は前年同四半期実績に比べ拡大しました。

その結果、売上高は54,248千円（前年同四半期比104.5%）、セグメント損失は123,145千円（前年同四半期は109,474千円の損失）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,584,234千円（前年同四半期比82.2%）となり、利益面につきましては、主にパーソナルパブリッシングサービス事業においてセグメント利益が大幅に減少したことにより、経常損失は7,313千円（前年同四半期は経常利益324,855千円）、四半期純損失は10,459千円（前年同四半期は四半期純利益228,604千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ305,068千円減少し、6,302,620千円となりました。これは主に、生産設備増強等により有形固定資産が116,710千円増加した一方で、配当金の支払等で現金及び預金が348,192千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ142,893千円減少し、714,410千円となりました。これは主に、役員退職慰労引当金が100,000千円、未払法人税等が74,000千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ162,175千円減少し、5,588,210千円となりました。これは主に、剰余金の配当による減少168,409千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べ348,192千円減少し、1,207,624千円となりました。なお、当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動の結果使用した資金は、73,462千円(前年同四半期は260,181千円の獲得)となりました。これは主に、役員退職慰労引当金の減少額100,000千円、法人税等の支払額72,273千円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は、104,674千円(前年同四半期は483,629千円の使用)となりました。これは主に、保険積立金の解約による収入108,887千円を計上した一方、生産設備購入など有形固定資産の取得165,908千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動の結果使用した資金は、169,375千円(前年同四半期は186,052千円の使用)となりました。これは主に、配当金の支払168,554千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年4月期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績及び今後の見通しを踏まえ、2020年6月9日に発表しました予想数値を変更しております。詳細につきましては、本日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年4月30日)	当第2四半期会計期間 (2020年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,960,817	1,612,624
受取手形及び売掛金	798,034	727,705
商品及び製品	190,796	176,314
仕掛品	49,083	99,313
原材料及び貯蔵品	98,238	93,351
その他	29,155	35,004
貸倒引当金	△4,351	△5,424
流動資産合計	3,121,774	2,738,890
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	905,868	954,207
機械及び装置(純額)	448,625	552,298
土地	844,060	844,060
その他(純額)	236,969	201,667
有形固定資産合計	2,435,524	2,552,235
無形固定資産		
投資その他の資産	221,573	242,746
投資その他の資産		
投資有価証券	523,634	531,347
その他	305,182	237,401
投資その他の資産合計	828,816	768,748
固定資産合計	3,485,914	3,563,730
資産合計	6,607,688	6,302,620
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	167,630	145,855
未払金	162,859	273,507
未払法人税等	87,100	13,100
賞与引当金	150,900	149,900
役員退職慰労引当金	100,000	—
その他	181,380	126,249
流動負債合計	849,870	708,612
固定負債		
退職給付引当金	6,009	5,670
その他	1,423	127
固定負債合計	7,432	5,797
負債合計	857,303	714,410
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	4,924,463	4,753,332
自己株式	△269,031	△265,577
株主資本合計	5,752,316	5,584,639
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,930	3,570
評価・換算差額等合計	△1,930	3,570
純資産合計	5,750,385	5,588,210
負債純資産合計	6,607,688	6,302,620

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2019年5月1日 至2019年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自2020年5月1日 至2020年10月31日)
売上高	3,142,930	2,584,234
売上原価	1,571,304	1,462,724
売上総利益	1,571,625	1,121,509
販売費及び一般管理費	1,247,931	1,178,063
営業利益又は営業損失(△)	323,694	△56,554
営業外収益		
受取利息	517	341
受取配当金	500	675
受取手数料	194	148
保険解約返戻金	—	32,600
助成金収入	—	14,615
未払配当金除斥益	1,051	—
その他	102	1,582
営業外収益合計	2,365	49,962
営業外費用		
為替差損	1,131	722
その他	73	—
営業外費用合計	1,204	722
経常利益又は経常損失(△)	324,855	△7,313
特別利益		
固定資産売却益	—	329
特別利益合計	—	329
特別損失		
固定資産除却損	145	2,313
特別損失合計	145	2,313
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	324,710	△9,298
法人税等	96,105	1,160
四半期純利益又は四半期純損失(△)	228,604	△10,459



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2019年5月1日 至2019年10月31日)	当第2四半期累計期間 (自2020年5月1日 至2020年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	324,710	△9,298
減価償却費	166,776	188,750
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,134	1,073
賞与引当金の増減額 (△は減少)	7,600	△1,000
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	—	△100,000
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	—	△339
受取利息及び受取配当金	△1,017	△1,016
自己株式取得費用	1	—
為替差損益 (△は益)	890	681
保険解約返戻金	—	△32,600
助成金収入	—	△14,615
固定資産売却益	—	△329
固定資産除却損	145	2,313
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,147	70,328
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△18,047	△30,861
仕入債務の増減額 (△は減少)	△151	△21,774
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△52,996	△42,640
その他	578	△20,261
小計	427,476	△11,590
利息及び配当金の受取額	949	1,341
助成金の受取額	—	9,060
法人税等の支払額	△168,243	△72,273
営業活動によるキャッシュ・フロー	260,181	△73,462
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△405,000	△405,000
定期預金の払戻による収入	605,000	405,000
有形固定資産の取得による支出	△410,447	△165,908
有形固定資産の売却による収入	—	420
無形固定資産の取得による支出	△58,741	△42,007
投資有価証券の取得による支出	△201,394	—
保険積立金の解約による収入	—	108,887
その他	△13,047	△6,065
投資活動によるキャッシュ・フロー	△483,629	△104,674
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△184,981	△168,554
自己株式の取得による支出	△122	—
その他	△948	△820
財務活動によるキャッシュ・フロー	△186,052	△169,375
現金及び現金同等物に係る換算差額	△890	△681
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△410,392	△348,192
現金及び現金同等物の期首残高	1,669,763	1,555,817
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,259,371	1,207,624

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の拡大は、葬儀の小型化やウエディング用写真集の受注減少など、当社の業績に影響を及ぼしております。

第1四半期累計期間の四半期報告書「(追加情報) (新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)」におきまして、主力のメモリアルデザインサービス事業及びパーソナルパブリッシングサービス事業において、当下期から通常の状態に戻り始めると仮定しておりましたが、当第2四半期財務諸表作成時において外部情報を含んだ入手可能な情報等を踏まえ、メモリアルデザインサービス事業においては当第3四半期から段階的に通常の状態に戻り始めるとの仮定に、パーソナルパブリッシングサービス事業においては、当第4四半期後半から段階的に通常の状態に戻り始めるとの仮定に、それぞれ見直しております。

当該仮定を会計上の見積りに反映しておりますが、前事業年度末から見積りの判断に変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2019年5月1日 至 2019年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージン グ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,218,103	1,875,024	49,803	3,142,930	—	3,142,930
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	2,100	2,100	△2,100	—
計	1,218,103	1,875,024	51,903	3,145,030	△2,100	3,142,930
セグメント利益 又は損失 (△)	297,390	396,453	△109,474	584,369	△260,675	323,694

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△260,675千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第2四半期累計期間(自 2020年5月1日 至 2020年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアル イメージン グ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,151,737	1,378,878	53,618	2,584,234	—	2,584,234
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	630	630	△630	—
計	1,151,737	1,378,878	54,248	2,584,864	△630	2,584,234
セグメント利益 又は損失 (△)	250,342	80,272	△123,145	207,469	△264,023	△56,554

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△264,023千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。